橋下・維新の破綻 明瞭に

橋下氏 松井氏 が衆院選出馬断念

背景に都構想の行き詰まり

維新の党の橋下徹共同代表(大阪市長)と松井一郎幹事長(府知事)は23日、衆院選への立候補を断念すると表明しました。『大阪都』構想をやりぬくため」などとその理由を説明していますが――

公明党に裏切られたと怒り

橋下氏らは「大阪都」構想の「協定書」が10月の府議会・大阪市会で否決されたにもかかわらず、「最後は住民投票で決める」などと主張し、議会の承認によらない「専決」処分で、「協定書」を「住民投票」にかける構えを見せていました。

橋下氏は12日、「公明党にやられた。このままで人生を終わらせるわけにはいかない」などと発言。前回総選挙で維新の会は「大阪都」構想への協力と引き抱えに公明党が議席を持つ大阪・兵庫の6選挙区で候補擁立を見送った経過があり、公明党が「協定書」に反対したことは橋下氏にとって「裏切り」でした。

住之江区での街頭演説(15日)では、「場合によってはこちらの地域でお世話になるかも」と、公明党が議席を占めていた大阪3区での出馬を示唆。18日は3区と16区に政党支部を設立し、それぞれ橋下氏、松井氏が支部長になっていました。

自らまともに説明もできず

公明党側は「正面からたたかう」との姿勢を崩さず、維新の会の支持者も含めて有権者から「府市政を投げ出すのか」などの批判や疑問が噴出。日本共産党の山口勝利府委員長は18日、小選挙区候補発表の記者会見で記者団の質問に答えて「安倍政権をほめることはできてもたたかえず大阪では『大阪都』構想の『協定書』が否決されるなど、行き詰まりにあることが背景にある」とはっきり語っていました。

明るい会・よくする会の「都構想ストップ」宣伝で訴える人たち＝22日、大阪市中央区内

断念表明の翌24日、新の会が泉南地域4カ所で行った街頭演説で、井氏は「都構想の住民投票をやるために軸足を阪に置く」と説明しましたが、橋下氏は自ら進で出馬断念について触ずじまい。聴衆の質に、「反発・批判を恐たのではない。今回の断のほうが大阪のためなる」としつつ、こういました。「それはなかというと、このあと展開、結果を見てほしと言うしかない」。

国政も大阪も退場の審判を

日本共産党の山口府員長は同日、両氏の出断念を受けて談話を発(全文は別項)。総選挙馬によって市政・府政げ出しを策したことは維新政治が次々と破たしたことによるものであり、「大阪都」実現とう出馬断念の理由も、らの矛盾と破たんをよ際立たせると強調。総挙で安倍政権打倒とに、国政からも大阪かも「維新退場」の審判下すため、日本共産党進に総力を挙げるとしています。

橋下・松井両氏の総選挙出馬断念を受けて日本共産党の山口勝利府委員長が発表した談話は次の通りです。

橋下氏・松井氏の「総選挙出馬断念」について

2014年11月23日　日本共産党大阪府委員長　山口勝利

一、橋下徹大阪市長と松井一郎府知事は、党利党略のかけひきにあけくれたあげく、本日、総選挙への出馬を断念することを表明しました。

これは大阪府・市政における「維新政治」の破たんに加え、国政上も、彼らが影響力を行使できなくなっているという二重のゆきづまりを示すものです。

一、橋下市長らが総選挙出馬によって市政・府政投げ出しを策したことは、「維新政治」が次々と破たんしたことによるものです。

「維新の会」の一枚看板とされた「大阪都」構想は、その「協定書」が府議会・大阪市会で明瞭に否決されました。地下鉄・市バス「民営化案」も否決され、敬老パスの有料化、住吉市民病院廃止をはじめとするくらし破壊に、市民各層から大きな批判を受けています。橋下市長による「職員アンケート」を名乗った「思想調査」などは中央労働委員会からも、司法からも断罪されています。彼らが「目玉」とした「民間公募」の区長、校長、さらには府教育長、市交通局長の問題など次々とボロがでて破たんしています。

これにたいして大阪市会でも、府議会でも、草の根からも、「大阪都ストップ」「維新政治ノー」をかかげた一点共同のとりくみが、かつてなく広がりました。

橋下氏らが総選挙に出馬せず、市長、知事にとどまるにせよ、こうした矛盾は何ら解消されず、日増しに大きくなるでしょう。

一、橋下氏らは、出馬断念の理由として「『大阪都』構想実現のため」などとのべています。しかし、これは彼らの陥る矛盾と破たんを、よりきわだたせるだけです。

橋下氏は、総選挙に出馬する理由として、「議会の議決なしで都構想の住民投票を実施できる法律改正を」などと言い出していました。これは橋下氏が策す「市長専決による住民投票」が「法律違反」であることをみずから認めるものです。

また「市長としてやり残したことはない」とも発言しました。これは「大阪都」をつくるという「公約」が、「市長としてやりとげる」べきものではなく、ただ市民に幻想をあおりたてるものだったことをみずから暴露するものです。

「住民投票のための住民投票」をはじめ、橋下氏らはいまなお「大阪都」づくりを策し、市民に反動的に挑戦しています。これを断固として打ち破り、文字通り政治的な終止符をうつたたかいをすすめなければなりません。

一、12月2日に公示される総選挙は、安倍政権打倒とともに、国政からも、大阪からも「維新退場」の審判を下す絶好のチャンスであり、歴史的な意義をもちます。

わが党は橋下・「維新の会」ともっとも正面からきびしく対決してきた党として、また大阪と日本改革のための対案をかかげてきた党として、「大阪都ストップ」「維新政治ノー」をかかげ、他の点での違いをのりこえ、広い共同をすすめてきた党として、日本共産党の勝利・躍進へ、総力をあげます。

大阪市議会

地下鉄・バス民営化を否決

岩崎市議「公営企業として発展を」

地下鉄・バス民営化条例案は維新の会以外の反対で否決＝21日、大阪市議会本会議場

21日の大阪市会本会議で、大阪市営地下鉄・バスを民営化する条例案と関連議案が、維新の会以外の日本共産党、公明党、自民党、民主系などの反対多数で否決されました。大阪市を廃止・解体する「大阪都」構想の協定書が府議会・大阪市会で否決されたのに続き、橋下徹大阪市長(維新の党共同代表)の目玉政策がとん挫したもの。維新政治の行き詰まりと破綻をまた一つ、はっきりと示しました。

本会議で反対討論に立った日本共産党の岩崎けんた議員は、地下鉄・バスが1世紀もの間、市民の足の利便を図り、住みよい大阪の街づくりに資する「公共の福祉の増進」を優先する市営交通事業として営まれ、今後も公営企業として市民の負託に応えて運営されるべきと指摘しました。

地下鉄は13年度決算で3333億円という過去最高益を記録するなど市民の貴重な財産であり、南海トラフ巨大地震対策、可動式ホーム柵整備などで利益を市民・利用者に還元すべきだと主張しました。

バス事業は民営化方針の下で進められた路線廃止や減便には、市民の不満がわき起こっており、「まさに公営交通の自殺行為」と批判。廃止された路線の復活、便数の拡充こそ必要であり、名古屋市では大阪市の4倍、40億円の補助金を出してバスを守っている例を示しました。

反対討論では他会派からも「民営化には決して反対ではないが、条例案は市営交通を廃止する条例で、市長へのは白紙委任だ」(自民党)などの批判が相次ぎました。

橋下市長は13年2月に民営化条例案を提出しましたが、バス路線の廃止に反対して住民の足を守る各地の運動や、交通権の確立を求める市営交通を守る会の運動が広がる中、5回にわたって継続審議となっていました。

橋下市長が民営化推進のために登用した藤本昌信交通局長(元京福電鉄副社長)の下で、入札資格のある大手広告会社と同局幹部らが会食しり、不適切な契約問題相次いで発覚。会食問では局の調査役が19日で解職に追い込まれてます。

日本共産党の柳利昭委員長は同日発表した話で、橋下市長は条例の否決を真摯(しんし)受け止め、市民財産をり飛ばし、公的責任をげ捨てる民営化路線をっぱり転換するよう求。総選挙での躍進をじて、安倍政権、維新会に最も厳しい痛打をえるために全力を尽くと表明しています。

府教育委員会議

府立2校16年度に募集停止

パワハラ疑惑中に強行

府教委は21日に教育委員会議を開き、府立池田北・咲洲高校の2校を2016年度入試から募集停止することを決定しました。中原徹教育長が議会での答弁をめぐり女性教育委員に威圧的発言を行うなど、府教委が正常な議論ができないと指摘される状況の下での決定です。

2校の保護者や卒業生・地域住民らでつくる「守る会」は、9月の案の発表から署名運動を始め、これまでに3万4580人分を府教委に提出しています。決定を受け、池田北高校を守る会の井上明子会長は「府教委から当事者への説明はついに一度もされず、署名に込められた私たちの要望や願いにいっさい応えることなく決められた。府民の声に全く耳を貸さない態度だ」と話しました。

教育委員会会議前に廃校反対の宣伝をする保護者＝21日、大阪市中央区内

咲洲高校を守る会の谷田香奈会長は「たくさんの署名や運動への協力は在校生や卒業生たちを励ましている。さらに5万人分まで積み上げたい」と決意を述べました。

この日の会議は、中原教育長の発言問題で一時開催が危ぶまれましたが、定刻から少し遅れて開催されました。この問題で府教委は弁護士を交えた第3者チームで調査することを決め、府議会でも臨時の教育常任委員で審議が始まっています。陰山英男委員長は、中原教育長から府教委事務局職員へも複数の問題行為があったことを明かしています。

府民の声を踏みにじるもの

府教委による池田北・咲洲高校の廃校決定に対し、大阪府立高等学校教職員組合(府高教)は21日、抗議声明を発表。「多数の府民の反対の声を踏みにじり、大阪の子どもたちの『学ぶ権利』を奪う暴挙で、断じて容認できず」ないとし、「中原教育長問題についての事実究明と厳正な対処、教育委員会の正常化なしに、重要事項を決定するなど言語道断」と述べています。

日本共産党大阪府委員会の駒井正男書記長も同日、両校を含む7校廃校計画の撤回を求めるとした談話を発表しました。

寸鉄

「体が二つあればやるんですけどね。体は一つしかありません」。維新幹事長の松井氏は街頭演説で、衆院選への出馬を橋下氏とともに断念した事情を、そう説明してみせた。だが「一つしかない体で、二足のわらじ」を履いてきたのは誰だったのか▼大阪市議会本会議(21日)で、一般決算認定に反対する討論に立った日本共産党の井上ひろし議員は、橋下氏の政治姿勢について、「大阪市長と維新の会の代表とを常に混同してきた」と批判した▼私設秘書を市長の特別秘書に取り立て、市民の税金で給与を出す。国政選挙などで1カ月休職・退職させて維新の選挙活動をさせてきた▼「大阪市は大きすぎて回れない」、だから都構想で特別区に分けると叫びながら、政党の代表として、支持拡大で全国を飛び回る。井上議員は「地方自治体の長としては、常軌を逸している」と厳しく指摘した▼出馬しないことが「ベストの選択」と市長にとどまりながら、維新代表として総選挙の争点について語った橋下氏は、「アベノミクスとか、集団的自衛権とかエネルギー問題とかじゃなくて、一番大事なのは、政治家に身を切る覚悟があるかどうかだ」▼安倍暴走政治の全体が問われている中で、実は対決軸がどこにもないことを自分で語っているようなもの。『大阪都』構想をやりきるために軸足を大阪に置く」(松井氏)と言うが、総選挙で安倍政権ともども、「維新退場」の審判を。